

巻 頭 言

本研究所は、2015年度から文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「ESDによる地域創生の評価とESD地域創生拠点の形成に関する研究」（研究代表者・阿部治）を実施しています。本研究プロジェクトのテーマのひとつに「ESD地域創生拠点の形成」を掲げていますが、その中で重要な位置を占めるのが、日本国内の自治体との連携です。

プロジェクトの母体である立教大学ESD研究所は、2016年度に3つの自治体（長崎県対馬市、北海道羅臼町、静岡県西伊豆町）との間にESD研究連携に関する覚書を締結し、2017年度には新たに長野県飯田市とも覚書を締結し、計4つの自治体とESDを通じた地域創生の可能性について実証研究を行ってきました。幸いにも各自治体の方々のご理解とご協力を得て、学生によるアクションリサーチや自治体間の合同研究会といった取り組みを実施してきました。そうした活動の一部を、本報告書にレポートや論考として掲載しています。今後も継続し、また検証を重ねていくことで、さまざまな効果が得られるものと期待しています。各自治体で行うアクションリサーチの比較検討、自治体間の交流など、私どもと一つ一つの自治体がつながるだけでなく、自治体同士のつながりも含めた連携を目指し、2018年度に全国ESD自治体会議、2019年度に全国ESD・SDGs自治体会議を開催しました。

本報告書は、2019年度に実施した、各覚書締結自治体及び豊島区と立教大学ESD研究所との連携による取り組みの一部をまとめたものです。ESDによる地域創生の可能性は、どこに見いだせるのか、今後も実践・研究活動を展開していく所存ですので、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

末筆ながら、各自治体の皆様をはじめ、本研究プロジェクトの遂行に際し、ひとかたならぬご厚情を賜った皆様に厚く御礼申し上げます。

2020年3月

研究代表者 阿部 治